

○松梨 久仁子 田中 由紀 小笠原 桂子 島崎 恒藏

(日本女大)

目的 前報は衣服における裏地の効果についてタイトスカートを取り上げ、裏地のもつ諸特性がどのように関連しているかに着目して検討を行った。摩擦特性の観点からは、衣服における裏地の存在が効果的に作用して動作性を向上させていることが明らかとなり、また引張特性が表地の形態保持に効果的であることが示された。本研究は前報の結果を踏まえ、測定条件を増加するとともに、着用感などについても若干の検討を加えた。

方法 試布には、裏地として各種繊維素材の13種の試料と表地として2種の毛織物を選択した。これらの各試布について、引張試験機やKES試験機を用いて引張特性及び摩擦特性を測定した。摩擦特性については各裏地と表地や基布(人工皮革、パンティーストッキング地)等を組み合わせて、二層間の摩擦係数、三層重ね状態での摩擦係数を測定した。次に表地1種類について9号サイズのタイトスカートを製作し、これに裏地を付与して人台を用いたモデル実験及び成人女子11名による着用実験を行った。踏み台昇降などの各種動作における表地の変形量やずれ量を測定し、動作時の着用感との関連性を検討した。

結果 動作時の裏地と人体のずれ量は三層間摩擦係数の結果とよく対応しており、摩擦係数の小さい裏地を付属したスカートはあまりまとわりつきを感じないことが示された。また、モデル実験及び着用実験により測定された表地の変形量は、いずれの場合も各裏地のよこ方向の伸び率の増加に伴って大きくなることが明瞭に示された。裏地の引張特性と動作時における拘束感との関連性が認められた。